



野 球 に優勝 ソフトボール

北陸三県都市職員球技大会

北陸三県下市役所職員の体位向上と親善をはかるため毎年行なわれる第11回都市職員球技大会は、8月13、14日および21日の三日間、福井市で行なわれました。

野球、ソフト共に福井県代表のミが勝ちのこり、大野市役所の両チームは21日明倫中学校における優勝戦で、野球は武生チームを9対1、ソフトボールは18A対5で福井チームを破り優勝しました。(写真は上 優勝の野球チーム、下 ソフトボールチーム)

各地区で敬老会

秋のとり入れを間近に、ホツと息の農村地帯では、あちこちで敬老会が催され、おとしりの方々をねぎらっています。

この日招かれたおじさんやおばさんはすっかり童心にかえり、心づくしの感食に相手をくずして大よこび慰安演芸に手をたいて時のたつのも忘れ、楽しい一日をおくりました。

お年寄の感想は
○「敬老会によぶれてうれしいですか？」



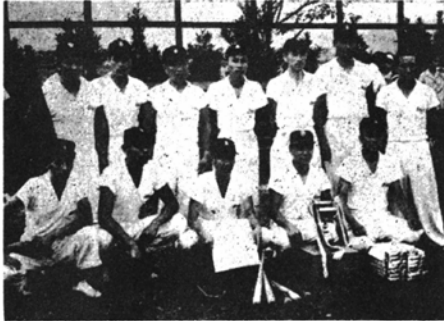
(写真は楽しいとき)

一般電話は「503番」へ

消防署には火事専用の電話「119番」と、一般事務用の「503番」があります。最近火事以外のことで「119番」を使用される方があり、電話局でも大変困つておられます。火事以外の電話はどうぞ「503番」へ。

火災専用 119番

一般事務用 503番



敬老会に来るのがとてもうれしく楽しみに待ちどおしかつた。婦人会の方々に親切にされて、ほんとうにうれしく感謝します。

○「あなたのお子さんやお孫さんは大切にしてくれますか？」

きょうも孫が身の回りなどあれこれと面倒を見てくれて、出てきました。孫に大切にされるのはほんとうにうれしい。

○「毎日どんな仕事をしてられますか？」

別にこれということは出来ませんが、子供の遊び相手をしながら庭の草をとつたり、気のついたことをなんでもしています。

9月1日は防災日

各学校でも避難訓練など

ことしから9月1日を防災の日として台風、地震、津波などの天災に対する認識を深め、この日を中心に全国各地で非常時に備えて避難訓練や、水防訓練などを実施します。

当市でも消防団幹部の講習会や各学校で避難訓練、防災についての講話などを行ない、非常に備える心構えと、体制を強化することとなつております。



発行
福井県大野市役所
編集
総務課広報係
印刷
松浦印刷所

待望の越美北線工事も大詰をむかえて、急ピッチで進められています。工事完成予定は11月15日頃で、年内には福井～大野間の運転営業が始められることでしょう。

工事予定のあらましは

敷設工事

※福井～勝原間延長45km

※レール敷設は勝原鉄橋まで完了。7月15日から九頭竜第二鉄橋架設工事が進められていますが、9月末完成の予定です。これ等の工事は線路は1km当り600万円、鉄橋には1m当り20万円の経費がかかります。

駅舎関係

※越前大野駅 7月18日着工

駅舎 376.8平方メートル 平屋建

鉄筋コンクリート

ホーム建物 116.8平方メートル

工事完成は11月15日頃

越美北線 福井～大野間

その他 981.9平方メートル(係員詰所、宿舎、保線関係建物)

総工費 2,700万円(近代設備のとのつたモダンな駅舎がでます)

勝原駅

※駅舎 87.5平方m、コンクリートブロック建、

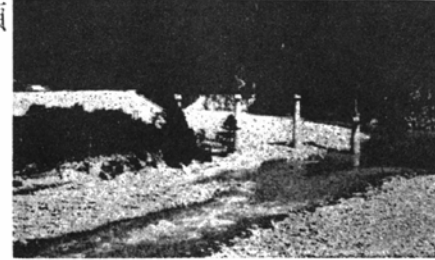
線路工事詰所 324.3平方m 工費785万円、

このほか無人駅「牛ヶ原」「越前富田」「下唯野」「柿ヶ島」の名付合所は、レール支柱木造10.2平方mが建てられます。

開通式は有中で

特別料金や貨物取扱について陳情

越美北線期成同盟会の理事会は22日



県議事堂でひらかれました。

11月中旬に工事が完成されるという国鉄の報告にもとずき開通式について協議の結果、11月末に大野市有終中学校で盛大に行うことに決めた。更に営業された場合の料金が特別料金となること、現在貨物取扱いの工事が進められていないこと、などの点について中央の意向をただし、待望の越美北線開通が

名実共に意義あるように料金の引下げ、貨物取扱工場の促進などを陳情することとなりました
(写真は九頭竜第二鉄橋)

国 勢 調 査

10月1日 全国一せいに

ことしは国勢調査の年です。これは我が国の人口の状況をしらべて、政治や行政の基礎資料とするための、もつとも基本的な統計調査です。大正9年にはじめて行なわれてから、5年目ごとにくりかえされてきました。ことしは第9回目の大規模調査にあたつて、ますのでこの趣旨をよくご理解の上皆さんのご協力をお願いします。

1 調査の範囲
昭和35年10月1日に国内に住んでい

る人の全部です。

2 調査の方法
各世帯に調査票を配布します。これは世帯主の方が記入する事項と調査員が記入する事項との二つの欄にわかれています。

3 国勢調査調査票は
(イ)市の調査員が9月24日から30日までの間に世帯主または代表者の人に配布します。

(ロ)調査票を記入する前に注意事項や

記入例をよく読んでから「世帯主が記入する欄」だけ記入して下さい。
(ハ)「調査員が記入する欄」は調査員が10月1日から3日までの間に調査票を集めるときに、世帯主又は代表者の人におきまして記入します。
(ニ)わかりにくい点がありましたら、市役所の国勢調査指導員または国勢調査員におたずね下さい。

自衛官募集

陸上
海上
航空
受 付 9月1日から10月10日まで
格 年令18歳～25歳未満
試 験 10月中旬～11月上旬
入 隊 36年1月上旬から
待 遇 2等陸、海、空士初任給約6,800円 他に衣食支給
◎受験その他詳細については市の総務課または各出張所へ。

市金庫が交代します

昨年9月から市金庫が出来て、市役所のお金の取扱はすべて市金庫が行なつておりますが、設立当時の契約で大野信用金庫と福井銀行が受持つこととなつていましたので、この9月1日から福井銀行が取扱うこととなりました。

森政地頭公民館完成

区民の待望であつた森政地頭公民館がこのほど完成し、他の部落や関係者から高く評価されています。それはわずかに戸数15戸という小さな部落でありながら、他からの力はほとんど借りず区民の強い団結と努力によつてつくられたことです。この公民館建設は昭和33年から「新しい村造り」として、公民館を建てようとするのが進められ、一戸当り毎月300円の積立金を行ない、ことしの7月に真名川土地改良区事務所(堀本)を12万円で購入して移築したもので8月16日に完成しました。

建坪102平方メートル、工費38万円と350人規模の奉仕で、40平方メートルの青果物果荷場をかね、床の間のついた8畳、6畳、4畳半の3つのへやと、完備された炊事場、その他あらゆる設備のつた近代農村にふさわしい農村振興の拠点としての公民館であります。いこいの場としても大いに活用されることでしょう。

(写真は完成した公民館)



00円 他に衣食支給

◎受験その他詳細については市の総務課または各出張所へ。



風見鶏

暑熱押し退け、天下はすでにこの秋だ。「月みれば千々にものこそ悲しけれわが身ひとりの秋にあられど」の境地は、現代にすれば科学の先端をゆく、米国外の諸国の真情もわからない。しかし持てる才能を独断的に行使してはばかりな

れど悲劇もまた生じる。話ばかりでない。▼今秋も連綿につく連続豊作の取入れを目前に迎えた。月にむらくも、花に嵐のたとえがあるが、台風は無事通過を願うや切である。▼音野分と言われた秋の風物詩も、暴

力を押せば野暮となる。災害復旧も復旧前に災害となる。これらの悪循環だけは宿命だと片づけたくはない。自然の暴威もほんとうに科学する前には感ほそまる。▼真名水系に比べて、九頭竜水系はこゝ近年荒れに荒れる。即ちダムの有無が証明する結果だと考えれば、今更半人知の思恵に驚嘆する。奥九頭竜電源開発の鼓動は高まりつつあるが、一刻も早く着工の実現を期待してやまないゆえんだ。▼ひとこり湧きに湧いた入

道雲も、形くずれて秋の高層雲となる。晴雲流れる空の青さはいよいよ深く、季節の推移は人歩をまたない心して移りゆく秋の深きに入れ、人も虫も……………。

大野市財政公表書

昭和34年度決算

この公表書は、市の財政事情を市民の皆様に報告し、市財政の状況について御理解をいたよくと共に、市の財政運営に積極的に御協力をいたよくために、毎年定期的に公表しているものがあります。

1千900万円を繰越す

一般会計の状況

昭和34年度一般会計の決算は第1表のとおり収入済額 3億9千697万7千円支出済額は3億7千797万3千円で差引1千900万4千円が翌年度へ繰越される訳でありますがこの中には前年度からの繰越金66万5千円が含まれていますから、これを差引いた1千833万9千円に庁舎建設などの積立金1千233万1千円を加えた3千67万円が結局実質上の繰越額（単年度黒字額）となり、前年度より1千767万4千円上回る健全財政が維持できたこと一応はいわれることになります。

歳出についてみますと、昭和30年度一般会計の決算額は2億3千440万9千円でありますから、昭和34年度は昭和30年度より9千754万4千円増で30年度を100とした場合に142の伸びとなります

全会計を集計してグラフに表しますと第2表のようになります。これを普通会計の性質別について見ますと、第3表のとおりで、投資的経済（建設費）が38.8%占め、その中の主なものは、補助事業（国、県から補助金をもらっているもの）と市単事業（補助金をもらっていないもの）です。災害復旧事業は国の復旧方式が初年度は10分の2となつていますので、割当のあつた額だけが決算に現われています。

次は消費的経費の29.6%となつています。消費的経費が少ければ弾力性のある財政状況といわれていますが、当市の場合、昭和33年度の県平均、全国平均と比較して見ますと、多少はよいのでないかと考えられます。

次に歳入について見ますと、第4表のとおりで、自主財源（市町村で調達出来る財源）が60%、依存財源（国、県等からもらう財源）が40%でありますから財政はあまり豊かではありません。特に市債（市が政府等から借入れた金）が千4万円で10%を占めていますことは幾分多いようです。

昭和34年度末における市債の額は約1億6千300万円で、その内訳は第5表のとおりです。学校建築のために借りた

お金（約43%）が一番多く、次に道路、橋の改良に借りたお金（約17%）であります。市民1人当たり約3千600円の借金があることになり、それを返済するのが第3表にある公債費で昭和34年度は1千671万7千円を返済しています。

そこで市民の皆さんに関係の深い市税について申しますと、一般会計の昭和34年度市税の収入済額は1億6千493万5千円で、前年度より約2千万円ふえています。これは富田発電所等のいわゆる大口償却資産に対する固定資産税が約1千900万円ふえたことであり、固定資産税収入額9千389万6千円の約41%に当たる3千921万1千円のほとんどが発電所施設の税金となつています。

市税の市民1人当りは約3,600円で第6表のとおり昭和34年度は急にふえています。直接皆さんの負担はそんなにふえていないと思います。徴収率は極めてよい成績ですが、全国では徴収率100%をあげているところもありますので、今後もよろしくご協力下さるようお願い致します。

② 特別会計の状況

国民健康保険会計については、従来7地域と大野地域の2会計で運営していましたが、昭和34年度から一本化して名実共に全市一本の国保会計として発足しました。

昭和33年度までは一般会計から200万円程度繰入して運営していましたが昭和34年度は繰入を受けずに収入額4千162万3千円、支出額4千139万円で差引23万3千円を繰越すほか、将来の国保運営資金として70万円を積立てましたので、合計93万3千円が黒字となり、前年度からの繰越金10万円を差引くと83万3千円が実質単年度黒字となります。昭和33年度までは実質赤字でありましたがようやく健全財政となつたのであります。これは被保険者である皆さんの国保事業に対する認識が深まりましたことにより、保険料の収納率が94.8%と前年より1.4%上昇し

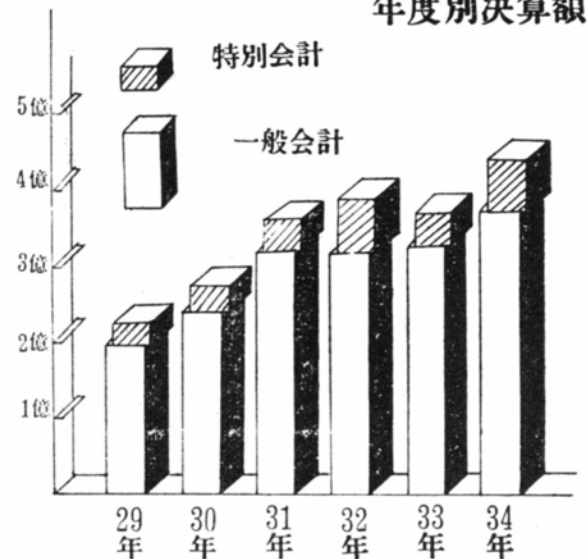
昭和34年度一般会計決算見込額 1表

歳入	入		予算に 対する 歩合
	予算額	収入済額	
市税	162,803,687	164,934,685	101.3
地方交付税	41,235,000	41,235,000	100
財産収入	25,570,000	20,034,408	78.3
使用料及び手数料	2,807,200	2,999,417	106.8
国庫支出金	51,858,418	48,494,872	93.5
県支出金	9,078,218	8,360,050	92.0
寄附収入	29,083,400	20,450,279	70.6
雑収入	40,829,089	49,313,756	120.7
市債	44,100,000	40,400,000	91.6
繰越金	664,661	664,661	100
合 計	408,029,675	396,977,128	97.2

歳出	出		予算に 対する 支出歩合
	予算額	支出済額	
議会費	5,762,000	5,613,885	97.4
役所費	49,616,795	48,727,574	98.2
消防費	13,696,200	13,068,081	99.9
土木費	54,183,500	44,593,493	82.3
教育費	72,721,514	71,258,341	97.9
社会および労働施設費	38,526,897	37,286,829	96.7
保健衛生費	6,796,200	5,253,337	77.2
産業経済費	87,604,640	81,176,770	92.6
財産費	17,741,000	17,708,414	99.8
統計費	439,438	348,190	79.2
選挙費	1,074,000	750,972	69.9
公債費	17,568,000	16,729,298	95.2
諸支出金	41,627,700	35,457,861	85.1
予備費	671,761	—	—
合 計	408,029,675	377,973,045	92.6

差引残高 19,004,083円 昭和35年度へ繰越 2表

のびゆく財政 年度別決算額



普通会計性質別支出の状況 3表

	3 2			3 3			3 4			33年度 県平均%	33年度全 国平均%
	決 算	%		決 算	%		決 算	%			
1消費的経費	148,541	46.1		102,210	31.3		113,298	29.6		32.5	38.0
人件費	57,514	17.9		66,015	20.2		75,378	19.7		19.0	23.6
物件費	33,658	10.4		36,195	11.1		37,920	9.9		13.5	14.4
その他	57,369	17.8		—	—		—	—		—	—
2維持補修費	9,147	2.8		10,857	3.4		7,230	1.9		2.7	2.7
3扶助費	14,721	4.6		46,273	14.2		47,171	12.3		11.0	12.6
4補助費繰出金	6,499	2.0		3,357	1.0		4,368	1.1		1.2	1.8
5公債費	26,618	8.3		12,434	3.8		16,717	4.4		10.5	6.7
6投資的経費	86,421	26.8		111,097	34.0		148,361	38.8		36.1	34.4
補助事業	19,689	6.1		83,366	25.5		59,462	15.5		29.0	26.9
単独事業	55,454	17.2		24,415	7.5		57,311	15.0		—	—
事業負担金	1,811	0.6		1,823	0.6		2,012	0.5		1.5	0.2
補助災害対策	—	—		—	—		14,487	3.8		4.3	4.1
単独災害対策	1,324	0.4		49	—		13,247	3.5		—	—
失業対策	8,145	2.5		1,444	0.4		1,842	0.5		2.8	3.4
7前年度繰上充用	30,315	9.4		16,772	5.1		—	—		2.4	1.4
8積立金	—	—		47	—		12,331	3.2		0.3	0.8
9出資金貸付金	—	—		23,595	7.2		33,420	8.7		1.8	1.4
合 計	322,262	100		326,642	100		382,896	100		—	—

市税の収納率は97.2%

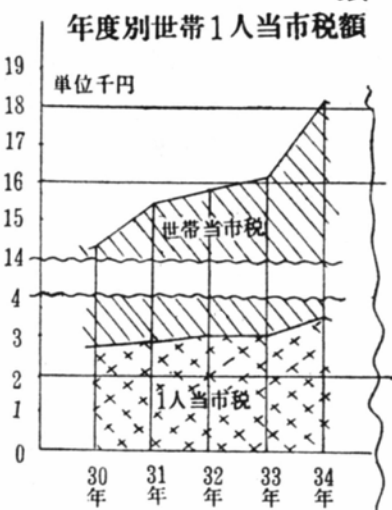
県 内 で 最 高

昭和34年度市税徴収状況

区 分	調 定 額	収 入 額	一人当 り税額	一世帯 当り
市 民 税	44,830,618	43,799,576	932	4,839
市 定 資 産 税	97,031,810	93,895,910	1,999	10,375
固 自 動 車 税	1,784,840	1,715,290	36	189
たばこ消費税	10,657,530	10,657,530	226	1,177
電 気 ガ ス 税	11,092,709	11,092,709	236	1,225
木 材 引 取 税	414,900	353,930	7	39
入 湯 税	17,460	17,460	—	2
都 市 計 画 税	3,617,150	3,402,280	72	375
合 計	169,447,017	164,934,685	3,511	18,224
徴 収 率		97.3		

6月1日現在 人口 46,965 世帯 9,050

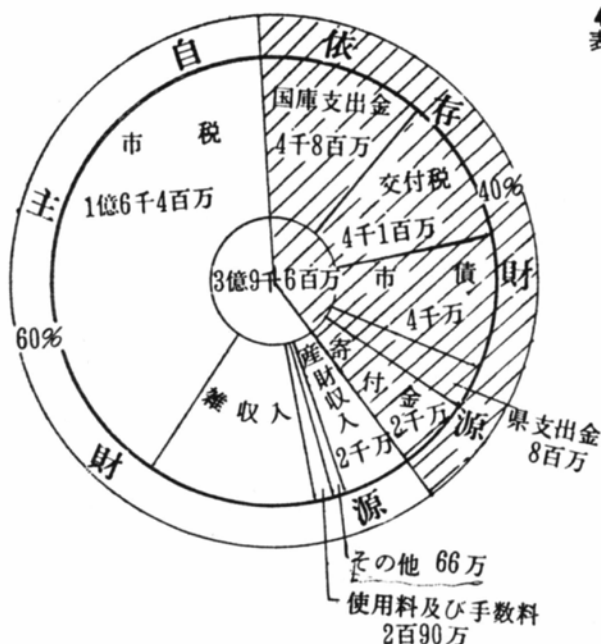
6表



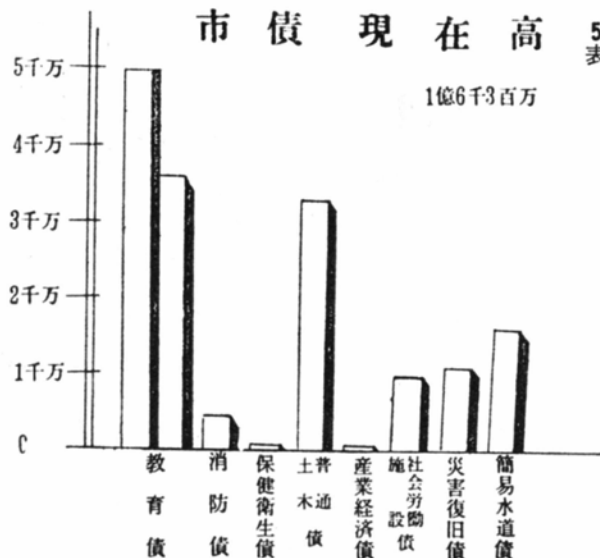
と考えられます。このため予算に計上された財源につきましてはすべての力を傾注してその確保に努め、市民皆様の福祉増進に寄与する考えであります。皆様におかれてもこのような事情を御了察下さいまして、市政に対する一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

保険税額の決定について

国民健康保険税額が決定しましたので、近く令書を配布いたしますが、ことしからは年度途中での被保険者の異動で、税額の更正はしないことになりました。例えば4月1日以降に死亡された方に対する人頭割の保険税はそのまゝ今年中変らず、生れた方には保険税をかけないで被保険者としての給付はいたします。



市債現在高



たこと、法律の改正により一部負担金
が医者の窓口払となつたので、国保会
計に立替払がなくなつたこと等が原因
と考えられます。

国民健康保険事業は財政の健全化を図ることは勿論であります、一歩進んで給付内容の充実と予防活動の推進による受診率のてい減を図らなければなりませんので、市民の被保険者の皆さん方の一層のご協力をお願いいたします。

診療施設事業勘定は種々の条件で財政状況は良好でなく、国保会計からの繰入金によつて決算をしています。その他の特別会計についてはその概要を省略いたします。

③ 昭和35年度予算の概要について

一般会計の予算現額は4億3,680万円であり、事業の主なものには庁舎建設費3,100万円、災害復旧費6,510万円、普通土木費2千049万円、庁舎建設積立金1千万円等が主なもので、収入のうち市税は昭和34年度の実績程度を見込

連続豊作、機業の不況回復など全国的な経済事情の好転という恵まれた事情もありましたが、未曾有の大災害をうけた34年度に、このような県下第一の徴税成績が得られましたことは、全く市民の皆さんの市政にご協力の賜で深く

輝やかしい大野の将来は、かつて皆さまの市政全般に対するご理解とご協力にまたねばならないことを認識されまして、一層のご協力をお願いいたします。

んでいますが、地方交付税については合併市町村の特例期限が満ちましたので、昨年の実績より1千500万円へつていきますから昭和35年度も決して良くな財政とは申せません。しかし健全財政維持のため常に計画性のある運営により、新市建設計画の推進と災害復旧の促進を図り、市政発展に努力いたします。

④ むすび

以上簡単ではありますが昭和34年度決算の状況と、昭和35年度予算の概要を

報告いたしました。

昭和34年度は災害により一時財政運営に危機がありましたが、地方交付税の特別交付額の増額、被害激しん地指定による高率補助の適用、起債の増額により一応は健全財政を維持できました。

そこで昭和35年度の状況について概観いたしますと、岩戸景気とかいわれる経済好況による市税の増収は、当市の産業構造では全く期待出来ず、かえつて政府の減税施策によるしわよせが心配され、地方交付税の減額は前述のとおり確定的となりました。

一方、經常経費は行政水準の向上に伴つて上昇し、災害の早期復旧等一般市費の需要の要因は極度に達していますこれらについて政府の地方財政に対する措置はなされていますが、決して満足すべきものではありません。

このような事情のもとで4億余円の予算規模となつていきますので、これが運営については、更に一層の創意が必要

昭和34年度特別会計決算額調

事業別会計	歳 入			歳 出			昭和35年度 繰越金額
	予算額	収入済額	予算に対する歩合	予算額	支出済額	予算に対する歩合	
国民健康保険	49,079,000	41,623,355	84.8	49,079,000	41,389,814	84.3	233,541
簡易水道事業	16,095,800	14,425,221	89.6	16,095,800	14,425,141	89.6	80
駅東土地地区画整理	6,597,250	5,958,585	90.3	6,597,250	4,755,479	72.0	1,203,106
富田診療所	2,977,000	2,756,405	92.5	2,977,000	2,756,405	92.5	0
五箇合診療所	567,100	578,237	101.9	567,100	537,910	94.8	40,327
合 計	75,316,150	65,341,803		75,316,150	63,864,749		1,477,054